



【先週の礼拝メッセージより】

「主に感謝せよ！」詩篇118篇

意味が分からない苦難や困難のただ中にある時
でさえ、全てが神のご支配の中にあるという確
信から、感謝に生き続けることができるという
ことこそ、私たちに与えられている最大の恵みです。

● 1～4節 感謝は命令！「主の恵みはとこしえまで」と言おう！

私たち異邦人はイスラエルに接ぎ木された枝ですが、それ故、この詩篇の呼びかけの対象に加えられています。その呼びかけとは「主に感謝せよ！」であり、「主の恵みはとこしえまで」と告白することです。

● 5～9節 主に焦点を向けると、人を恐れることから自由になる！

苦難の中にありながらもなお感謝し続けるための第一歩は、主ご自身に焦点を向けることです。過去を思い出し、主がどのような所を通して下さったか思い起すことです。私たちの多くの問題は「人」から来ますが、人と主の大きさと真実とを比べるなら、問題は問題でなくなるのです。

● 10～14節 現在の困難に対して必ず勝利できるという確信

ここで三回、確実に勝利できることが繰り返されています。主が過去に勝利させてくださったように、今抱えている問題にも必ず勝利させてくださることを私たちは確信し、勝利を先取りすることができるのです。

● 15～29節 究極の感謝、義の門、主の門より入る希望

この箇所の中の多くの部分は、主イエスが来られたことによって成就しました。多くの部分が新約聖書に引用されています。イエスご自身、ご自分を「門」と言われましたが、私たちはその主を信じることを通して、義とされ、救いを頂き、もはや、死ぬことから自由にされました。

★ 私たちは昔を思い起し感謝し、今の状況の中で感謝し、将来のことを思い描いて感謝できるのです。感謝をますます生活化しましょう。■

【母の日の由来】

♥ 母の日は1915年にアメリカでホリデーになりました。母の日をホリデーにするために一生懸命、頑張った人の名前はアンナ・ジャービスという人です。♥アンナさんのお父さんは牧師、お母さんのアンさんもずっと教会学校の先生をしていましたが、お母さんのアンさんは、若い母親たちに子供の育て方を教えるためにアメリカ全国に MOTHER'S WORK CLUBを立ち上げる働きをし、さらに南北戦争後は傷ついた南北の人間関係を修復し、コミュニティーの再生に大いに活躍しました。♥アンナさんのお母さんが亡くなったのは、1905年の5月、お母さんに助けられた大勢の人々から感謝状が届く中、アンナさんの願いによって、当時ウェスト・バージニアにあったメソジスト教会で「自分のお母さんと、お母さんたち全員」を記念する礼拝がなされました。1907年に行われた礼拝には、大勢の子供たちとお母さんたちが集まり、記念にお母さんが好きだった白いカーネーションが配られたことから母の日にはカーネーション、となりました。♥アンナさんはその後、6年間かけて、母の日をアメリカのホリデーにして欲しい、と熱心に国会議員たちに働きかけ、ついに1915年に実現したのです。♥アンナさんは母の日が商業化されることを大変嫌い、この日が本当に、お母さんたちを覚え、心から感謝する日にしてほしい、と亡くなるまで訴えつづけたと言われています。★ 皮肉なことですが、母の日は商業化されたからこそ、今に至るまでしっかり祝われ続けているという言い方もでき、商業化=悪、とは言い切れないものがあります。しかし！ 母の日は、教会で始まったことですから、この日を覚えて、先ず、私たちが率先して、母たちを大切にしていきたいものですね。

